石屋工務店 かわら版

第128号

H27年9月30日 発行

石屋工務店

TEL 075 492-1483（シックニ イシヤサン）

京都市北区大宮薬師山東町 47－5　建設業／京都府知事(般-25)第 31625 号　インテリアコーディネーター登録店

社長 石屋の多趣味人生 その104

美山へ

シルバーウイーク、皆さんどう過ごされたでしょうか？社長業のつらい所で一人で事務所に籠るのが私の役目です。そんな中、時間を見つけてツーリング。最近は美山へ行く事が多くなりました。

美山までの道のりは、自宅を出まして玄琢の坂を上ります。光悦寺のそばを通り京見峠へ。昔は道幅が狭くカーブがきつく走りにくい道でしたが一部拡幅されて走りやすくなっています。この道は自転車のメッカで多くのライダーを追い抜きます。ちなみに私はバイクで一っ走り。峠を過ぎると、いつも水汲みの人で賑わう湧き水のスポットが有ります。自転車の人達もここで一服しています。そして杉坂へ出て周山街道へ入っていきます。ここまでくると車の量が増えて走行がゆっくりになります。周山も20代の頃よく走ったのですが、あの頃よりトンネルが増え走りは楽になりました。しばらく走るとウッディ北山に出ます。ここを過ぎると道は広く直線になり追い越しができるようになります。のんびり走っている前の車を追い抜き北を目指します。途中から小雨がぱらつき、ちょっとやばいかなと思いながら走ります。ここまで来るとバイカー達とよくすれ違います。中には手を振ってくれる人もいて、出来るだけ振返します。そして赤橋を超えるとバイカーの溜まり場の美山牛乳に着きます。この日は天気もぐずついていたためか思ったほどの数では有りませんでした。定番の美山牛乳をいただき一休みしてから帰ります。片道1時間程度で行けますので、朝出て午前中には会社へ帰れるのがいいですね。

最近一番の気分転換です。いつかは自転車で行ってみたいと思っています。

石屋　紀次

芸術の秋

シルバーウィークが終わり、すっかり秋らしく肌寒くなってきました。芸術の秋と言う事で、この連休の間に私は、気になっていたマグリット展を見に京都市美術館に行ってきました。ルネ・マグリットの作品は、とてもシュールなものが多く、その感覚になぜか興味を引かれていました。実際、目にすると不思議な世界感の中にも、もの悲しい雰囲気を持った作品が多かったのですが、作者の生い立ちを読み、納得するところがありました。マグリットの作風に暗い影を与えているのは、実は青年時代に母が入水自殺をした事だと書かれていました。晩年の作品は晴れ渡った青空にきれいな雲が浮かんでいる絵が多かったのですが、それも明るい世界への憧れだったのかもしれません。このマグリット展を見る前に、ルーブル美術館展にも行っていたのですが、私はこのマグリット展の方がとても心に残りました。

山本　夕起子

シルバーウィークと魚釣り

なかなかゆっくり休めないのですが、今年はシルバーウィークを有意義な休暇として過ごしました。4日間の休みに2回も魚釣りに行ってしまいました。晩酌を控え、夜中から息子と二人で日本海に向かって、狙いは「アオリイカ」です。

と言うものの食べられれば何釣れてもいいよ。っていう思いで釣ると、そこそこ釣れます。豆鯵を釣って、アオリイカを釣る。初日は烏賊だけではなくツバスも釣れました。2回目はアオリイカにカワハギ、ワタリガニ、あとマゴチが65cm大物（妻は信じない）。家に帰ると、私が居ぬ間に20cmの鯵を6匹も釣ったと言い（私は信じない）、疑ってみれば妻の鯵はご近所の方の釣り土産で、私のマゴチは息子が隣で釣った人の魚をタモで救い上げ、リリースするのを丁重に頂戴したものでした。勿論感謝し、お刺身、煮付け、湯で蟹で頂きました。今年はなかなかの釣果です。

石坂　晴夫

思い出

2ヶ月の夏休みが終わりました。名残惜しい気持ちもありますが、毎日忙しくしていたので、すべてやり遂げられたことにホッとしています。来年のこの時期は就職活動をしていると思うと、ちょっぴり寂しいです。

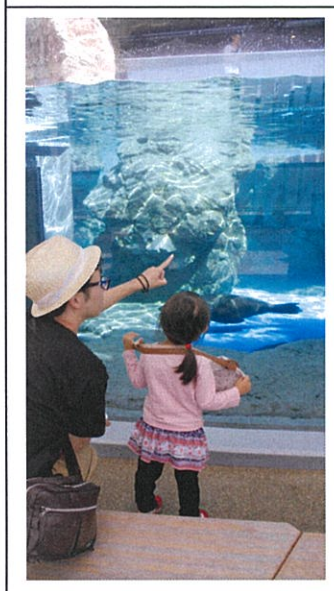
この夏は今しかできないことをと思い、前々から計画を立ていろんなことをしました。フィールドワークでは五島列島、東北、北海道、東京に行きました。前回は東北のことを書きましたが、五島の人口二人の島へ行ったり、北海道の農業の話を聞いたりと、他もそれぞれ興味深く面白かったです。そしてなんといっても食べ物がおいしい！ その土地の食べ物を楽しめるのも魅力的です。他には、インターンシップにいき仕事の体験をしたり、部活の合宿に行ったり、日帰り旅行へ行ったりと充実した毎日を過ごせました。明日から授業が始まります。残りの1年半、大切に過ごしていきたいです。

写真…五島市福江島

中西　恵梨

敬老の日

今年はシルバーウィークがあり、全国大移動で大変な様子でありました。京都も大勢の人がお越しで、一乗寺のラーメン街道は見たこともない程の行列でした。私達はあまり大移動をすることがないのですが、今年、息子が長女を連れて帰省してきました。始発の電車に乗ってもあまりにも大勢なのでこれはダメだと、帰りは指定席を取ったそうですが、選ぶ権利はなかったようです。久しぶりに会う孫っちは、成長し、シャイな感じは変わりません。両親に暖かな目で守られながら育っている感じが良くわかります。孫っちは、「よく分からないけど、知らない人ではない」と言う感じなのでしょうか。私と手をつないでウロウロしても泣かないので一安心です。この三日間、じいさんは「アッシー君」、ばあさんは「大蔵省」で3日間はあっという間に終りました。



石坂　千孝